

# 事業報告書

平成20年度  
(2008年)

自 平成20年4月 1日  
至 平成21年3月31日

# 普及事業部

## 事業の概況

【総収入 4,050 円／予算 3,842 千円 +208 千円】

1. 参加料収入 (1,311 千円／予算 1,664 千円)

ブリッジを愉しむ会／ジュニア対象各イベント／NECブリッジフェスティバル初心者大会の参加料収入

2. 広告収入 (2,739 千円／予算 2,178 千円)

1) 競技会関係ー①エンゼルプレイングカード(株) (レッドリボン杯、冬季ウィメンズチーム大会)

②ニッサン自動車(株) (ブルーリボン杯)

2) 第1回ワールドマインドスポーツゲーム大会関係ー①大阪商業大学、②コスモエンジニアリング(株)、

③エンゼルプレイングカード(株)

【総支出 : 63,582 千円／予算 68,484 千円 ▲4,902 千円】

**普及部会** [5,769 千円／予算 8,066 千円]

1. 各種イベントへの参加、体験教室・講習会の開催と援助、人材の育成など。

(1) 第23回国民文化祭いばらき2008 生活文化総合フェスティバル (142 千円／予算 401 千円)

\*特筆事項：期間の短縮および国民文化祭実行委員会より助成金 (計 104 千円) が支給されたことで、予算を大幅に下回った。

[会 期] 平成 20 年 11 月 8 日～9 日 (2 日間)

[会 場] 茨城県土浦市霞ヶ浦総合公園体育館

[事業内容] つくばBC/日立BCの協力を得て下記内容でブリッジを総合的に紹介した。

ミニブリッジ体験教室、コントラクトブリッジ練習サロン、ブリッジ紹介パネル、カード及びブリッジが登場する小説等ブリッジ関連資料の展示、第1回ワールドマインドスポーツゲームズ北京大会結果の展示、デモンストレーションゲーム (協力：つくばBC/日立BC)、プロモーションビデオ放映

[広報活動]

1) 茨城新聞本紙および国文祭特集号への広告掲載

2) インターネット配信サービスを利用してメディア約 500 社へニュースリリース配信

3) 最新ニュースサイトでのリリース掲載

4) JCB L公式ホームページでの告知掲載

[成 果]

1) 2 日間の体験教室参加者 100 名。(週末開催のため学校動員なし)

2) 茨城県の会員数が対前年比+4 名の 77 名に増加。

(2) NECブリッジフェスティバル体験教室 (支出 : 309 千円／予算 580 千円、参加料収入 : 87 千円／予測 48 千円)

[会 期] 平成 21 年 2 月 13 日～14 日 (2 日間)

[会 場] 横浜国際平和会議場アネックスホール (神奈川県横浜市)

[事業概要・成果]

『第1回ワールドマインドスポーツゲームズ』開催を記念し、昨年に引き続いてマインドスポーツ全5競技 (「ブリッジ」「囲碁」「チェス」「ドラフツ (チェッカー)」「シャンチー (中国将棋)») を関係各団体のご協力を得て紹介。スタッフ総勢 67 名、「団体別」「共通」形 17 のプログラムで 2 日間の参加者は約 350 名を数え、大成功のうちに終了した。ブリッジプログラムでは、「競技会の体験」の意味合いが強い初心者対象の「デビュタント杯」「ビギナーズ杯」の 2 競技会を実施、昨年を上回り 87 名の参加者を得た。また、ブリッジの 2 初心者大会、および全種目を自然に体験してもらうため実施した「シールラリー」、「ミニマインドスポーツゲーム大会」には、参加団体および企業 3 社から参加賞や賞品が寄贈された。ブリッジの知名度上昇に伴い、ブリッジイベントへの協賛社が増えてきたことが 2008 年度の特徴に挙げられる。

<ブリッジ・プログラム> 協賛：(株)オブコスメティックス

- ①ミニブリッジ体験教室…2日間の参加者約200名
- ②コントラクトブリッジ初心者向けゲーム大会「第2回デビュタント杯」47名参加
- ③ 同上 「1回ビギナーズ杯」40名参加

<囲碁プログラム> 協力：(財)日本棋院／(財)日本ペア碁協会／(株)スターナイン／国際囲碁連盟

- ①体験・対局コーナー ②プロ棋士による指導碁 ③「子ども囲碁大会」④囲碁ミニクイズ大会

<チェス・プログラム> 協力：日本チェス協会…体験・対局コーナー

<シャンチー(中国将棋)・プログラム> 協力：日本シャンチー協会…体験・自由対局コーナー

<チェッカー(ドラフト)・プログラム> 協力：日本チェッカー・ドラフト協会…体験・自由対局コーナー

<シール・ラリー> マインドスポーツ1種目を体験するごとに1枚のシールを獲得、全5種目を体験すると福引にチャレンジして全員に賞品が当たるという企画。55名が全種目を体験した。

\*賞品提供：(株)オブコスメティックス、エンゼルプレイングカード(株)、(株)ニチュー、参加各団体

- (3)「ブリッジを愉しむ会」 (支出：752千円／予算740千円、参加料収入：550千円／予測720千円)  
[事業内容]日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤーを対象に懇親会形式で①4/9(参加者28名)、②7/11(参加者36名)③10/8(参加者25名)、④1/14(参加者28名)の計4回実施した。

\*参加者計：117名

- (4)ミニブリッジ指導員講習会 (30千円／予算349千円)

[事業内容]普及に関心のあるプレイヤー諸氏には全国的に浸透し始めているミニブリッジだが、普及事業部が地方リジョナルなどで併催する体験教室開催時に地元プレイヤーの皆様のアシスタントをしながら実際の指導法を体得していただくワークショップ方式をメインに実施した。同方式は既にミニブリッジ指導法を知っているプレイヤー諸氏に対してもこれまで普及事業部がさまざまな機会(ジュニアくらぶ活動、多人数対象の体験教室など)に試して培ってきた「対象と場」によって使い分ける幾つかの指導法応用パターンを伝授する機会として活用した。

計6回 28名参加。開催地：東京／札幌／大阪／土浦／横浜／那覇

- ①4/29 東京 東京女子大学体験コーナー(2名) ②6/14/15 北海道リジョナル体験教室(4名)
- ③8/23 関西ジュニアペア碁大会(5名) ④11/8、9 国民文化祭いばらき2008(3名)、⑤2/13、14 NECBF体験教室(13名) ⑥2/21 沖縄体験教室(1名)

- (5)体験教室・講習会への助成 (2,308千円／予算2,890千円)

[事業内容]

●ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

- 2008年度総数：45件、受講者864名、1件当たり平均19名
- (2007年度総数：44件、受講者868名、1件当たり平均20名)
- (2006年度総数：62件、受講者975名、1件当たり平均16名)
- (2005年度総数：42件、受講者817名、1件当たり平均19名)

●クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

- 2008年度総数：20講座、受講者216名、1件当たり平均10名
- (2007年度総数：18講座、受講者179名、1件当たり平均10名)
- (2006年度総数：18講座、受講者248名、1件当たり平均14名)
- (2005年度総数：18講座、受講者178名、1件当たり平均10名)

●カルチャー講座アシスタント料の助成

- 2008年度総数：25講座、受講者209名、1件当たり平均8名
- (2007年度総数：26講座、受講者213名、1件当たり平均8名)

(6) 学校担当ブリッジ講師養成講座の開催 (80 千円/予算 230 千円)

“教育部会”を復活して取り扱う事業とした。当該部会において候補校が出てきた時にその学校に合わせての講師選定、養成講座を行なうべきとの決議がなされ、本年度は実施せず。2007 年度に一年間行なった慶應義塾幼稚舎での授業のために作成した小学校高学年向けカリキュラム/教材を、需要に応じて誰でもすぐに利用できる状態に整備した。

(7) カルチャースクール講師料助成 (324 千円/予算 300 千円)

[事業内容]

ブリッジ普及にあたって必要と普及事業部が判断した外部講習会講師助成。

- ①神奈川県八景学院 ②札幌カルチャーセンター平岡 ③ヨークカルチャーセンター長野 (交通費)、
- ④ヨークカルチャーセンター茅ヶ崎 計4ヶ所に対して助成を行った。

(9) 海外クラブへの支援 (29 千円/予算 150 千円)

[事業内容]

ニューヨーク日本人会ブリッジ部、北京日本人会ブリッジ部、シンガポールブリッジクラブの依頼により、新人養成用入門図書を助成。

2. 地方クラブの調査・支援と地方会員の獲得 (1,484 千円/予算 ¥1,606 千円)

[事業内容]

昨年度に引き続き、地方におけるブリッジの認知度をあげ、ブリッジ人口増加につなげるため、主としてリジョナル開催時を利用して地元メディア全社へのリリース配布と PR 訪問・終了後のフォロー体制を確立させた上での体験教室をセットで実施した。また、第2次5カ年計画の目標のひとつである地方大都市圏の活性化に関して各データによる現状分析調査を行った他、北陸、東北、大阪、沖縄のブリッジ界発展に寄与できる支援方法を探るための聞き取り調査、地方で開催される初心者大会への賞品支援など、「顔のみえる」地方クラブ調査・支援事業を全国規模で実施した。

[4月] ①高松ー瀬戸内海ブリッジフェスタ体験教室 (参加者 55 名) /メディアまわり  
四国新聞掲載、NHKテレビ当日昼と夕方のニュースで放映

②仙台ー青葉祭りリジョナル体験教室 (参加者 25 名) /メディアまわり

[6月] ③札幌ー北海道リジョナル体験教室 (参加者 50 名) /メディアまわり

④盛岡/秋田/仙台ー体験教室支援/BC支援

⑤千葉ー近隣BC集客をめざして東海東京証券新浦安店オープン記念ブリッジセミナー開催に協力。

[7月] ⑥浜松ーメディアまわり

⑦長崎ー居留地チェス倶楽部主催「ミニ・ミニブリッジ大会 in 長崎」に協力

[8月] ⑧神戸ー関西地域ブリッジ普及活動現状のヒヤリング

⑨浜松ー浜松リジョナル体験教室 (参加者 19 名) /メディアまわり

[9月] ⑩札幌ークラブ視察/メディアまわり/カルチャーセンター挨拶

⑪長崎ー「長崎居留地まつりブリッジ大会」(初心者大会)に協力

[10月] ⑫福島ー「まなびピアふくしま」参加事業に体験教室出展。地元プレイヤー、仙台BC/盛岡BC有志の協力で参加者 94 名。

⑬仙台ー仙台BC視察

[11月] ⑭埼玉ー「第21回全国生涯フェスティバル“まなびピアさいたま2009”1年前イベント」川崎市在住会友の支援を得て体験教室開催。参加者 80 名。

⑮沖縄ー同好会支援/メディアまわり

⑯名古屋ー名古屋リジョナル体験教室 (24 名) /メディアまわり/ヒヤリング

[12月] ⑰大阪/神戸ーBC視察、ヒヤリング

[2月] ⑱長崎ー長崎ランタンセクショナル初心者大会に協力

⑲沖縄ー初心者大会「なんくるないさあ〜杯」協力/体験教室 (参加者 11 名) /メディアまわり/カルチャーセンター営業

### 3. その他、体験教室

●東海東京証券コントラクトブリッジセミナー：同社の顧客向けセミナーの一環として2回開催

①6/5 新浦安フィナンシャルプラザオープン記念ブリッジセミナー @浦安ブライトンホテル  
参加者24名

②11/21 ブリッジ・プレミアムセミナー @東海東京証券本社VIPフロアー 限定顧客16名対象

### 4. 新入会友の獲得 (202千円/予算170千円)

[事業内容] 実施期間：2008年1月1日～4月30日

「新入会・再入会」キャンペーンと会員・会友を対象にした「新入会友紹介キャンペーン」を実施、新入会者/再入会者/紹介者に特性QUOカードを進呈して会友の増加をはかった。前年度に比べてキャンペーン定着とともに紹介者数/紹介者ありの入会者数は増加したが、期間中入会者数総数としては減少した。(大人の新入会者数に増減はなし)

\*期間中の入会者：208名 内、新入会178名(前年比▲1名)、再入会30名(前年比▲12名)  
内、紹介者あり151名(前年比+17名)

\*紹介者 81名(前年比+11名)

### 5. リタイア層へのブリッジ普及 (105千円/予算200千円)

[事業内容]

1) 四谷ブリッジセンターで隔週開催のシニアブリッジサロン講師料を助成。(各回5～6Tで開催)

2) (社)中高齢者雇用福祉協会(JADA)とタイアップして、シニア層へのPRを行なった。

アニュアルブック「ないすらいふガイド」の表2全ページ広告、会員証送付票裏面への全面PR文は、会員2万世帯に配布された。その他、NEC体験教室、「脳とブリッジ」研究発表などの告知も同協会を通して会員に案内された。

3) 中高年を対象にした雑誌「コレカラ」(1月号)にブリッジ紹介記事掲載。

### 6. インターネットを利用したブリッジ普及 (0/予算450千円)

全国で普及に携わる会員・会友(登録指導員・普及協力員・日本教師会会員 \*重複者あり)を対象に普及活動実態調査を行った結果、インターネットを利用した普及活動に関心のある会員・会友が71名、8名が現在指導中であることが判明、これらの会員との間で、より有効的で具体的なネット普及の在り方を検討する段階に入った。ユース部門ではインターネットを利用した練習会が定着し、代表戦好試合は昨年に続き、インターネット競技会形式で行なった。

● 「ブリッジ入門」ダウンロード数：2008年度5993件(2003年5月からの累計：36,572件)

● 「ブリッジ入門II」ダウンロード数：2008年度4041件(2004年10月からの累計：19,620件)

### 8. 普及活動現状アンケート調査実施(8月～9月)

第2次5カ年計画設定目標に基づいて、より効果的な普及活動や支援システムを開発するため、全国で普及活動に携わっている普及協力員・登録指導員・体験教室/入門講習会助成申請者および日本ブリッジ教師会会員計470名を対象に活動状況・新人育成状況、活動に当たっての希望や意見を把握するためのアンケート調査を実施した。この調査結果はJCB L普及力向上のため2009年度に設立する新普及システム「普及ネット」設立へとつながるなど、普及活動現場に反映させていく。

### **ユース部会** [6,606千円/予算8,363千円]

若年層へのブリッジ普及のため、本年度は以下の事業を行った。

#### 1. 青少年対象の団体(機関)との提携 (153千円/予算230千円)

[事業内容]

1) 東京女子大学「園遊会」体験コーナー(参加者 30名)

2) 文部科学省「霞ヶ関こども見学デー」体験コーナー(参加者 80名)

3) 青少年対象ミニブリッジ指導ツール作成

#### 2. 現役ユースへの支援

(1) 大学クラブ新入部員勧誘活動助成 (144千円/予算220千円)

[事業内容]

- 1) 京都大学ブリッジクラブ新入生勧誘活動支援 (部員11名)
- 2) 名古屋大学“名大祭”ブリッジ体験コーナー支援 (参加者 100名)
- 3) 北海学園大学コントラクトブリッジ同好会立ち上げ支援 (部員7名)

(2) 学生合宿 (学生リーグ主催) 支援活動 (227千円/468千円)

[事業内容]

- 1) 夏季学生・ユース合同合宿支援 (8/18~22、@東京都多摩市多摩スポーツセンター)  
参加者: 大学生36名 (内 ブリッジ1年目14名)、学生リーグOB4名  
東京大学 (4名)、学習院大学 (2名)、東京外国語大学 (1名)、早稲田大学 (6名+院生1)、東北大学 (4名+院生2名)、京都大学 (4名)、大阪大学 (10名)  
\*ブリッジ1年目の学生の内、東北大学と大阪大学から参加の9名に交通費と宿泊費を助成した。
- 2) 春季学生・ユース合同合宿支援 (3/12~16、@東京、代々木青少年研修センター)  
参加者: 大学生25名。ブリッジ1年目での参加者は東北大学、大阪大学、早稲田大学から計10名)
- 3) プライベートスコアブック助成

3. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣

(1) 第6回PABFコンGRESS大会への派遣 (1,522千円/予算1,528千円)

[事業内容]

8月29日~13日にかけてオーストラリア・ゴールドコースト・サーファーズパラダイスで開催されたPABFコンGRESS大会 (23ヶ国・地域が参加) に2008年度ユース代表選手6名から成るAチーム、NPC1名を派遣した。またAチーム以外に、6名のユースがBチームとして別枠の海外競技会参加助成を受けて自費参加した。大阪BCから参加選手の自己負担補助を目的とした壮行会開催支援があった。

\*NPC: 山後秀幸

\*Aチーム: 田口宏之、犠川健志、今井智士 (大阪大学)、横井大樹 (東北大学)、志賀元明 (東北大学)、小池紀彰 (大阪大学)

\*Bチーム: 田中治樹 (大阪大学)、中山尚純 (京都大学)、伊井康朗 (京都大学)、後藤田俊輔 (学習院大学)、貴戸祥郎 (大阪大学)

[結果]

\*オープン・ストラティファイドペア戦 (96ペア参加) : 今井-小池ペア準優勝、横井-田中ペア8位

\*PABFユース本戦 (チーム戦、12チーム参加) : Aチーム/Bチームとも予選敗退

\*オープン・スイスペア戦 (98ペア参加) : 横井-田口ペア優勝、志賀-後藤田ペア37位、小池-貴戸ペア74位

(2) 第1回ワールドマインドスポーツゲームズへの派遣 (608千円/予算1,216千円)

\*特筆事項: ブリッジユースチームはWMSG北京組織委員会より、往復航空券の支給、夏季オリンピックで使用した選手村への無料宿泊などの便宜がはかられたため、当初予算の半額で事業完結。また、(株)エンゼルプレイングカードからユースチーム支援を目的とした広告協賛があった。

[事業内容]

10月3日~18日にかけて中国・北京市で開催された「第1回ワールドマインドスポーツゲームズ」 (124カ国・地域が参加) に囲碁・チェス・チェッカー・シャンチーの各競技日本代表とチームジャパンを結成して参加。ユース部門に代表チーム (6名) とNPCを派遣した。

\*NPC: 山後秀幸

\*U28代表チーム: 田口宏之、今井智士 (大阪大学)、横井大樹 (東北大学)、中山尚純 (京都大学)、伊井康朗 (京都大学)、小池紀彰 (大阪大学)

[結果]

\*U28チーム戦 (76カ国・地域から74チーム参加) : 予選52位

\*ユース・ペア戦 (198ペア参加) : 予選グループB 中山-伊井19位、横井-田口23位

\*ユース・個人戦 (51カ国・地域、220名参加) : 予選グループC 今井19位、伊井20位、中山26位、横井36位、田口46位

(3) ユース強化プログラム (1,035千円/予算1,538千円)

特筆事項：学生の休みを利用しての集中講習会に遠隔地から上京する場合は仲間の家やNPC自宅への宿泊を奨励したりなど、あらゆる側面で経費削減に努めた。

〔事業内容〕 代表候補登録メンバーの強化と選抜を目的に、夏季事業を行なった。

- 1) 集中講習会（年末特別講習会／強化対象試合後の特別講習会）の実施および講師料の助成
- 2) 強化対象試合（柳谷杯、横浜インビテーション、朝日新聞社杯、NEC杯、木村六郎杯）参加料、参加時の交通費・宿泊費助成
- 3) 第一次代表選考会、第二次代表選考会の実施、など。

#### 4. ユース／ジュニア会友の国際試合への参加助成（300千円／予算304千円）

〔事業内容〕

若年層プレイヤーが世界のブリッジに触れ、国際経験を積んでもらうことを目的に、6名を限度に1名¥5万と参加料の助成を行なう事業。本年度はPABFコンGRESS大会のBチームに適用した。

#### 5. 「学校教育現場におけるユース層普及活動」

##### (1) 東京大学全学体験ゼミナール「考える力を育てる／コントラクトブリッジ」（542千円／予算894千円）

〔事業内容〕

東京大学駒場キャンパスにおける表記ゼミは3年目を迎え内外でその存在が定着、ブリッジの社会的信用度向上に大きく貢献している。2008年度も前期（5期目。履修登録者32名の内、単位取得者24名）と後期（6期目。履修登録者32名の内、単位取得者13名）の2期、それぞれアシスタント（2名）を派遣して担当教員ロバート・ゲラーJCBL理事の授業進行をサポートした他、ボード組み込み等事前準備に関する支援、希望者へのJCBL会報送付、四谷BCで実施したゲーム形式の最終授業／親善ゲーム開催を支援した。3年前のゼミ開始時には廃部寸前であった東大ブリッジ部だが、ブリッジゼミ卒業生2名を含め16名が集まってプレイするようになったなどその成果が具体的な形となって現れ始めている。

##### (2) 教育現場へのブリッジ講師派遣＝早稲田大学コントラクトブリッジセミナー（340千円／予算350千円）

〔事業内容〕

早稲田大学同窓生の尽力で同大学大久保キャンパスにおいて、「コントラクトブリッジの指導法の研究」をテーマに掲げたブリッジセミナーが週1回各90分、全15回のセミナー形式でテスト講座として開講、普及事業部では講師料（1名分）・アシスタント料・用具類を助成し、これを支援した。同大学ゲームの科学研究所（プロジェクト研究所）特別研究員清水英樹氏を担当教員に、ミニブリッジから始めてコントラクトブリッジの基礎までを指導する方法をとった。単位の出ないテストセミナーにもかかわらず毎回5名前後（延べ82名）が参加、修了後、同大ブリッジ部入部者1名、JCBLユース会友入会者1名という成果を早速挙げた。2009年度4月から同大学メディアネットワークセンター設置の2単位取得できる正規科目「コントラクトブリッジで学ぶ数理学入門」としての開講が決定した。

##### (3) 学校ブリッジ教育拡大活動（13千円／予算218千円）

特筆事項：2007年度に1年間実施した慶應義塾幼稚舎でのブリッジ授業の講師料¥8万が同校から入金され、総計としては少額で納まった。

〔事業内容〕

- 1) 会員による京都ノートルダム女子大学同窓会／同志社高校／同志社中学／同志社小学校へのブリッジ紹介活動を支援した。
- 2) 情報処理学会第21回ゲーム情報学研究会（3月9日@大阪商業大学）において早稲田大学ブリッジセミナーに関する研究「コントラクトブリッジの実践的教授法の研究」が発表されるに当たり、発表者清水英樹氏の交通費を支援した。
- 3) 岐阜県大垣市の公立小学校で、会員である教員によりミニブリッジをクラブ活動に採り入れる試みが行なわれた。

#### 6. ジュニアくらぶ活動（支出：1,718千円／予算1,353千円、参加料収入：452千円／予測354千円）

ジュニア部会としてジュニア層を対象に下記活動を行なったが、予測を上回るジュニア層の勢いを維持するため、収入/支出とも予算を超える結果となった。

\*収入内訳：ミニ道場関係133千円、ジュニアキャンプ参加料313千円、ハシノスケ杯6千円 計452千円

\*ジュニアくらぶ会員数：216名（内、JCBLジュニア会友：65名）

## [事業内容]

ジュニア層開拓、育成を目的にジュニア部会メンバーが講師として活動。四谷BCを会場にした月例プログラム、長期休みを利用しての横浜BC、京葉BC、八千代台（千葉）公民館での練習会活動のほか、長崎でも長崎居留地チェス倶楽部を会場に2名のジュニアくらぶ会員に対して定期的に開催した。各イベントにおける講師・アシスタント代・交通費・競技会賞品代などを負担したほか、2008年度から新規にジュニアくらぶメンバーへの直接広報ツールとして「ジュニア通信」を年4回発行した。こういったさまざまなジュニアくらぶ活動からは、指導法、体験教室実施方法、指導ツールなどを含め大人の初心者にも展開できるさまざまなノウハウが蓄積され、実際に活用された。

- (1) ジュニアサロンの開催：春休み、夏休み、秋の連休、冬休みに計7回、  
参加者：ジュニア延べ86名＋大人9名  
会場：横浜BC（3回、延べ29名＋大人8名）、京葉BC（1回、12名＋大人1名）、八千代台（3回、延べ45名）
- (2) 橋之介ミニひろば・プレ道場の開催一月1回日曜午前に計11回開催  
参加者：ジュニア延べ57名＋大人9名。  
会場：四谷BC（10回、延べ61名＋大人7名）、横浜BC（3回、延べ15名＋大人4名）  
参加料：200円
  - 1) ミニひろば：幼稚園年中組～高校生、およびブリッジの経験が初めて、または2回目の人を対象にホイストからミニブリッジまでを体験する場。事前申し込み制、2名以上のグループ単位で参加するシステム。JCB L会員・会友の参加も可。
  - 2) 橋之介プレ道場：ブリッジが久しぶりのジュニアまたはミニ道場入門前のジュニア対象にしたミニブリッジの練習会。
- (3) 橋之介ミニ道場の開催一月1回、日曜午後、計10回開催（ミニひろば／プレ道場と同じ日）  
参加者：ジュニア延べ108名  
会場：四谷BC（10回、延べ91名＋大人2名）、横浜BC（3回、延べ17名＋大人2名）  
ミニブリッジに慣れてきた10歳～18歳のジュニア限定でプレイのワンポイントレッスンおよび競技感覚を養うことを目的にゲームを行った。  
参加料：1人300円
- (4) ミニブリッジ大会「第6回ハシノスケ杯」 2月7日、京葉BCにて開催  
参加者：ジュニア12名（初めて大会に参加したジュニアは4名。）  
ペアのうち一方がジュニアであることを条件に、大会に参加したことのないジュニアに初めてのミニブリッジ大会の機会を提供する目的で始めた大会も6回目を迎えた。  
京葉地区ではミニ道場の開催がなく、NECBFの会場からも遠いため、京葉BCで開催することで京葉地区～東京東部のジュニアが参加できた。ジュニア層の身近な目標となる大会との位置付け。  
参加料：子ども500円、大人1,000円
- (5) ミニブリッジ大会「ミニ道場スペシャル大会」（チーム戦）8月、1月、3月の3回開催  
定期開催のミニ道場で覚えたことを試す場。  
参加者総数：ジュニア延べ70名  
開催：夏休み（8月、20名）、冬休み（12月、24名）、春休み（3月、26名）に四谷BCにて。  
参加料：¥500
- (6) ミニブリッジ大会「横浜ベイminiブリッジ大会」（ペア戦）5月3日開催。9ペア参加。  
GW期間中に行なわれた横浜ブリッジセンター主催「横浜ベイブリッジフェスティバル」で、ジュニア・大人を対象にしたミニブリッジ大会を初開催。
- (7) ジュニア・ミニブリッジチーム選手権試合（チーム戦）11月9日開催。6チーム参加。  
将来「全日本ミニブリッジチーム選手権」に発展させることを目的に、参加することが日頃の努力目標となる、核の高い大会との位置付け。（将来は優勝チームを全日本チャンピオンとして表彰することにより、ジュニアくらぶ会員の究極の目標となり、向上心を後押しするような重みのある大会にする。現在は首都圏にジュニアプレイヤーが集中しているため、2008年度は関東地区を対象に開催した。将来、ジュニアプレイヤーが全国的に広がった時は各地で予選を行っていく。）



参加者：チームでの申込みを原則とし、6チーム28名（小2～中1）参加。  
内容：予選（6チームによる4ボード総当り戦）、決勝戦、残念ゲーム（コンソレーション）  
結果：小4/小5/中1（2名）、全員女子、経験2年以上の「ほしうめチーム」優勝

(8) 「夏休みジュニアキャンプ2008」の開催

昨年初めて行なった親子ブリッジキャンプに引き続き対象を親子からジュニアに変更し、保護者のボランティアスタッフとともに運営する形で参加人数を拡大して開催した。居留地域の異なるジュニア、保護者間の交流を図り、ミニブリッジの楽しさを深く知ってもらうことを目的とした。初めての試みとしてジュニアをブリッジ以外の面でサポートするボランティアスタッフを公募、名古屋、東京、千葉から計5名の参加を得た。その他学生アルバイトスタッフ2名、JCB Lジュニア部会メンバー7名の総勢14名のスタッフ体制で臨んだ。

日程：2008年7月29日～30日（1泊2日）

場所：東京都八王子市高尾の森わくわくビレッジ

ジュニア参加者数：32名

参加費：9,800円

内容：初日－グループ練習、野外ナイトハイク、自由練習

2日目－大会（8Tチーム戦、予選3ラウンド、決勝4チームKO方式）、スイカわり、等。

(9) 「ジュニアくらぶ案内」作成（事務局で印刷）

(10) ジュニア通信（5ページ）の年4回発行（事務局で印刷） \*2008年度新規企画

(11) 会員メールリストの作成と活用（登録者52名） \*2008年度新規企画

**広報部会** [20,558千円/予算23,073千円]

ブリッジの社会的認知度を上げるため、以下の事業を行なった。

1. ブリッジ普及広報宣伝活動（2,609千円/予算2,972千円）

[事業内容]

(1) マスメディアへの広告掲載（九州地域分を除く）

●特定地域対象の広告：

テーマ主として体験教室告知/ブリッジ全般PR

件数：18件（高松市、北海道、仙台、浜松、茨城県、名古屋市、横浜・田園都市、沖縄県）

●全国対象のブリッジPR広告：

テーマ：ブリッジ全般のPR、ブリッジと脳の研究発表、ワールドマインドスポーツゲームズ、シニアチーム金メダル獲得関係

件数：7件（中高年雇用福祉協会年鑑、富士通ジャズフェスティバルパンフレット、インターネットメディア配信）

(2) 対メディア広報活動

「ワールドマインドスポーツゲームズ（チームジャパン/シニア金メダル）」、「ブリッジゲーム経験が高齢者の記憶に及ぼす影響」、「競技会/体験教室」を3本の柱に、ニュースリリース送付、ホームページへの掲載のほか、メディア各社に直接コンタクトして取材依頼を行い、可能な限り実際にブリッジのプレイ光景を見ていただいた上での広報活動を行った。

[結果] 2008年度の紙メディア露出数は過去最大だった2007年度の68件の2.4倍にあたる162件（とらえきれていない紙誌を含めると約3倍と推定）と飛躍的に伸びた。またさらにインターネット版での露出を加えると「ブリッジ」という固有名詞が人の目に触れた回数は計り知れないほど増大したことが推測できる。

[効果] 全国的に体験教室参加者数・入門講習会受講生・競技会参加者数の増加につながっただけでなく、社会的認知度を向上させ、新規タイアップ事業/協賛/カルチャーセンター開講/新規取材のオファーにつながった。なかでも「コレカラ」（中高年向け）、「HERS」40代女性向けファッション誌、トヨタカード機関誌（インターネット版）などで採り上げられたことはブリッジが「旬」の素材になってきたことを物語っている。

☆ メディア登場回数：新聞・雑誌等計162回（昨年：68回）、総発行部数：約1億6540万部～（発行

部数不明多数あり)

全国紙 36 回 (昨年 : 21 回)、地方紙 104 回 (昨年 : 36 回)、夕刊紙・雑誌・業界紙など 22 回 (昨年 : 11 回)

(3) クリップサービスの利用

全国の紙媒体で掲載された「ブリッジ」に関する記事 (広告を除く) を年間を通じて収集、分析、広報戦略を立てる上で活用した。

2. マインドスポーツ広報・宣伝活動報宣伝活動 (748千円/予算1,183千円)

I M S A (国際マインドスポーツ協会) 活動、“知の祭典”「第 1 回ワールドマインドスポーツゲームズ (W M S G)」開催など、マインドスポーツとしてのブリッジに焦点を当てての普及広報活動により、より多くの人々の関心を集めることをめざし、次の事業を行なった。

\*特筆事項 : W M S G 参加に当たって、囲碁、チェス、チェッカー、シャンチー各団体とマインドスポーツ界初の「チームジャパン」を結成して参加したことは、各競技の相互 P R 効果、社会的認知度の向上に大きく貢献した。

[事業内容]

(1) 「第 2 回関西ジュニアペア碁大会」 (主催 : 日本ペア碁協会、主管 : 関西棋院) サブイベントのブリッジ体験コーナー/ミニブリッジ・ペア碁大会に講師、スタッフを派遣。囲碁界のジュニア約 100 名にミニブリッジを紹介。

(2) 「W M S G チームジャパン」事務局作業/広報作業

W M S G を通してのマインドスポーツ普及、参加各競技の普及を目的に、W M S G 5 種目に日本代表を派遣する 6 団体でチームジャパンを結成、定例会合開催 (計 12 回) のほか、共同記者会見・チームジャパン公式ウェブサイト・ニュースリリース作成/配信・帰国報告会などの広報活動 (マスコミ 155 社)、共通ロゴ・エンブレム・ユニフォーム・パンフレット・シールなどの P R ツール制作活動、協力企業・団体開拓活動などを企画・実施する事務局作業を担当した。

●「W M S G チームジャパン」構成団体 : ブリッジ ( J C B L )、チェス (日本チェス協会)、囲碁 (財団法人日本棋院・財団法人日本ペア碁協会)、チェッカー (日本チェッカー・ドラフト協会)、シャンチー (日本シャンチー協会)

●協力社/団体 : 大阪商業大学、(株)博文社、エンゼルプレイングカード(株)、コスモエンジニアリング(株)、(株)パンダネット

[広報成果] 2008 年度 W M S G に関する記事掲載はクリッピング調査で判明しただけでも延べ 66 紙誌 (92 版)、総発行部数は 6856 万 4 千部を軽く越えた。その他、インターネット上でのメディア、ブログなどの掲出、5 競技代表選手の勤務先機関誌での紹介、NHK テレビ囲碁チャンネル/N H K ラジオでのブリッジシニアチーム金メダリストインタビューなど全国的に“ブリッジ”競技の存在が一般社会の目に触れる絶好の広報機会となった。

(3) 長崎居留地チェスクラブ/長崎コントラクトブリッジ研究会のタイアップ活動支援

①「Mini mini ブリッジ大会 in 長崎」(7 月 @長崎市、東山手地球・長崎居留地チェス倶楽部)

②長崎居留地まつりブリッジ大会 (9 月 @長崎市カステラの長崎堂) 賞品提供

③「Exciting! ヨーロッパ姉妹都市交流・ブリッジの旅!!!」(10 月、ポルトガル・ポルト市、オランダ・ライデン市)

長崎市長を団長とする市民交流ミッションに長崎居留地チェス倶楽部の推薦で長崎 C B 研究会有志が参加した際にライデン・ブリッジクラブ用記念品を委託。

④長崎国際交流フェスティバル ブリッジ&チェス体験コーナー (10 月 @長崎市出島国際交流会館) 展示、記念品支援。参加者 : 21 名

(4) ジュニア・ミニブリッジ&ペア碁体験サロン (8 月、@横浜ブリッジセンター)

ジュニア対象のペア碁指導を行なっている(株)スターインとの共催

(5) 東急ハンズ渋谷店「“W M S G フェア “店頭体験コーナー”設置 (10/11~13) 参加者 : 92 名 (株)ニチューの紹介で W M S G 開催期間中の 3 連休に W M S G の P R も兼ねて来店者を対象にした

体験コーナーを初めて実施した。

3. 「脳科学的見地からみたブリッジの効用」研究（継続事業） （312千円／予算1,000千円）

[事業内容]

東京女子医科大学に依頼していた「ブリッジと脳」に関する学術研究（正式研究名「高齢者におけるカードゲームと認知機能に関する研究」）が2008年9月18日、日本心理学会第72回大会（会場：北海道大学）で発表された。論文名「カードゲーム経験が高齢者におけるな前の記憶に及ぼす影響」として学会誌に収録されている。2009年度中に海外の権威ある学術誌に発表予定。

(1) 広報活動：

- ①学会発表時の取材依頼—朝日新聞（全国版）、日本経済新聞（全国版）、デイリースポーツ掲載。
- ②ニュースリリース全国配信（インターネット利用）
- ③発表内容のパネル作成

(2) 過去に発表された海外での学術論文調査、翻訳

4. ブリッジに関する出版物の刊行 （12,072千円／予算12,663千円）

[事業内容]

- (1) 会報「JCBLブリテン」... 年6回奇数月1回発行（各7,300部）
- (2) 「JCBL HANDBOOK」5月1日 7,600部発行

5. 広報ツールの製作・発行 （2,446千円／予算2,272千円）

\*特筆事項：2008年度4月に新規ブリッジ紹介パンフレット”Let's Play Bridge”を10,000部製作したが、予想を超えて秋には在庫切れとなり、同じ年度内での増刷が必要となったため予算超過が発生した。

[事業内容]

- (1) 新パンフレット”Let's Play Bridge”製作／印刷（10,000部）
- (2) 同パンフレット増刷（10,000部）
- (3) 総合パンフレット改訂版製作／増刷（2,000部）
- (4) ハシノスケ缶バッジ製作（500個）
- (5) スタッフ用ブリッジTシャツ製作（70枚）
- (6) ブリッジ紹介パネル7種製作
- (7) その他、ブリッジプロモーション用小物サンプル購入

6. ウェブサイトの運営 （2,369千円／予算2,983千円）

[事業内容]

毎月の定例更新のほか、状況に応じての適宜改訂を行い、会員にとってやより利便性と満足度アップにつながるよう、初めて訪れる非会友にはブリッジの魅力がわかりやすく伝わるよう内容の充実をコンスタントにはかった。

●サイト全体のアクセスサマリー：6月に保守業者を変更して依頼の記録。

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PV	72,328	117,181	117,267	144,023	140,008	118,405	128,640	138,514	240,902	119,327
特記				WMSG効果					NECBF	

**管理費** (30,648千円／予算28,982千円)

- (1) 各種講習会への会場の提供
- (2) その他目的達成に必要な下記経費  
職員給料／臨時雇賃金／退職給付／福利厚生費／旅費交通費／通信運搬費／消耗品費／会議費／図書資料費等、普及・出版・広報活動に必要な経費

以上

# 競技会事業部

## I 事業の状況

### 1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認

【収入176,932千円／予算174,800千円】

競技会の開催と公認については、本年度は以下の事業を実施した。

#### (1) 競技会的主催 (収入51,583千円／予算55,072千円)

##### 1) ナショナル (全国大会) 競技会 (収入30,732千円)

競技会名	日 程	参加卓数	(前年度)
玉川高島屋S・C杯	4月19、20日	89	(84)
文部科学大臣杯関東予選	5月10、11、17、18日	50	(60)
藤山杯	7月5、6日	141	(141)
外務大臣杯	8月32、24日	67.5	(71.5)
高松宮記念杯	9月13、14、15、20、21日	101	(108)
読売新聞社杯	10月25、26日	178	(152)
高松宮妃記念杯	11月1、2日	80	(75.5)
NISSANブルーリボン杯	12月23日	126.5	(126.5)
レッドリボン杯	12月23日	39.5	(39.5)
朝日新聞社杯	1月12、13、14日	148	(150)

##### 2) リジョナル競技会 (収入17,608千円)

競技会名	日 程	参加卓数	(前年度)
柳谷杯	4月5、6日	141	(142)
サントリー杯	4月29日	119	(115)
日本航空杯	5月24、25日	70.5	(66.5)
モンタルト杯	7月26、27日	35	(34)
丸の内杯関東予選・決勝	8月30、31日	11	(13)
夏季シニアチーム	8月30、31日	13	
萩原杯	10月4、5日	93	(100)
服部杯	12月3日	190.5	(189.5)
春季リジョナル	3月14、15日	27	(22)
渡辺杯	3月28、29日	47	(54)

##### 3) 日本リーグ (収入3,360千円)

日本リーグ1部、2部	前期、後期	40	(40)
------------	-------	----	------

##### 4) 社会人リーグ (収入306千円)

社会人IMPリーグ	11月～3月	17	(19)
-----------	--------	----	------

##### 5) 参加料割引 (-423千円)

#### (2) 競技会の公認 (収入122,622千円／予算117,228千円)

##### 1) ナショナル競技会 (収入996千円)

NRM杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む20競技会を公認	178	(151.5)
---	-----	---------

##### 2) リジョナル競技会 (収入6,174千円)

主催リジョナル競技会予選を含む42競技会を公認	1,307	(1,288.5)
-------------------------	-------	-----------

##### 3) セクショナル競技会 (収入88,688千円)

1,662競技会を公認	30,249	(28,204)
-------------	--------	----------

##### 4) ローカル競技会 (収入1,724千円)

432競技会を公認	2,714.5	(2,840.75)
-----------	---------	------------

##### 5) IMPリーグ (収入31,072千円)

5月～9月	2,724	(2,697)
-------	-------	---------

11月～3月

(2,684)

6) クラブ選手権 (収入8,488千円)

1,287競技会を公認

11,630

(12,169.25)

7) 参加料割引 (-14,520千円)

(3) マスターポイント証収入 (2,726千円/予算2,500千円)

(4) 競技会の主催と公認事業 (37,376千円/予算36,514千円)

上記競技会の開催と公認及びマスターポイント制度の確立と実施のために必要な経費として37,376千円を支出した。

2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催【485千円/予算1,532千円】

競技会の水準と環境の向上のためのディレクター講習会等の開催については、本年度は以下のような事業を実施した。

(1) ディレクター育成 (96千円)

・ 地方ディレクター講習会 (1回)

つくば：受講者27名

・ クラブディレクター講習会 (1回)

東京：受講者23名

(2) JCB Lハンドブックの作成

競技会参加者の手引き、JCB Lハンドブックの改訂作業を行った。

(3) マナーの啓蒙活動 (6千円)

(4) センターサービス向上委員会 (386千円)

・ ブリッジセンター/常設ブリッジクラブの実態調査を行った。

・ 4ブリッジセンターのAED購入を支援した。

3. 競技会運営システムの保守・改良【2,547千円/予算2,714千円】

平成14年度から開発を開始した競技会集計ソフト(JTOS)については、本年度はバージョン2.5の保守を行い、10月にバージョン2.6の配布を開始し、3月末現在203名からのダウンロードがあった。また45のクラブおよび個人にCDの配布を行った。

4. ブリッジライブラリー運営事業【221千円/予算991千円】

定款第5条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する資料の収集と管理」については、本年度は以下のような事業を行った。

・ ブリッジ関係の書籍を購入した。

・ ブリッジ雑誌の製本と破損書籍の修理を行った。

5. ウィメンズ強化プログラム【1,289千円/予算1,300千円】

コキッシュ氏を講師にBBOを利用して講習を行った。

6. 競技委員会【115千円/予算280千円】

委員会を8回、他に小委員会を開催し競技会における裁定、コンベンション規定、マスターポイント規則の管理などの検討を行った。

ディレクター資格認定者数：セクショナルディレクター：4名

クラブディレクター：7名

7. その他事業【1,040千円/予算1,333千円】

(1) 公認クラブ支援 (136千円)

公認クラブからの要望・意見などの聴取を行った。

(2) ルール委員会 (904千円)

「デュプリケートブリッジの規則2007年版」の翻訳、出版を行い、4月26日に

新規則を施行した。施行に先立ちディレクター講習会を行い、会報に規則改正の案内を掲載した。

8. その他競技会事業部の目的を達成するための事業

【44,162千円／予算43,476千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

# 国際交流事業部

## I 事業の状況

### 1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施した。

#### (1) 第6回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)コンGRESの運営協力 [639千円/予算433千円]

会 期：平成20年8月30日～9月7日

会 場：ゴールドコースト、オーストラリア

事業内容：PABF代表者会議へ役員派遣

結 果：大会会期中に開催されたPABF代表者会議に宮国健次副会長がPABF幹事長、吉田正事務局長がPABF事務局として出席した。

#### (2) 世界選手権への代表派遣 [6,053千円/予算6,976千円]

会 期：平成20年10月3日～10月18日

会 場：北京、中国

事業内容：第1回World Mind Sports Gamesに代表チーム派遣

結 果：オープン（キャプテン林伸之、メンバー成田秀則、伊藤陽一、野田裕之、大高栄二、吉田勝、小林泰）は予選A組17ヶ国中12位  
ウィメンズ（キャプテン寺本直志、メンバー島村京子、伴野和子、タン瑞子、大西弘子、柳澤彰子、高崎恵）は予選E組18ヶ国中6位で  
いずれも決勝トーナメント進出はならなかった。

シニア（キャプテン前田尚志、メンバー山田彰彦、大野京子、中村嘉幸、平田眞、井野正行、阿部弘也）は予選K組を16ヶ国中2位で決勝  
トーナメントに進出し、1回戦でドイツ、準々決勝でイングランド、  
準決勝でインドネシア、決勝でアメリカを下し見事優勝した。

#### (3) 国際試合への派遣 [500千円/予算330千円]

事業内容：平成21年2月26日～3月2日にゴールドコースト（オーストラリア）で開催されたYeh Bros Cup到北京のWMSGで優勝したシニアチームのメンバー（山田、大野、中村、平田、井野）を派遣した。

#### (4) 第46回PABF選手権日本代表選抜試合 [795千円/予算883千円]

会 期：平成20年11月15、16日、12月13、14日

会 場：四谷ブリッジセンター

事業内容：1)平成21年6月18日から28日までマカオで開催される第46回PABF選手権に参加するオープン、ウィメンズの日本代表各1チームを選抜する。

結 果：【オープン】2チーム12名が参加し、井野正行、今倉正史、陳大偉、寺本直志、高山雅陽、古田一雄の6名を代表に選抜した。

【ウィメンズ】4チーム24名が参加し、島村京子、伴野和子、西田奈津子、天野亜矢子、中尾共栄、坂本みどりの6名を代表に選抜した。

#### (5) 日本代表チームユニフォームの製作 [637千円/予算420千円]

事業内容：日本代表メンバーにユニフォームとエンブレムを支給した。

2. 第14回NECブリッジフェスティバルの開催(22,340千円/予算26,965千円)

会 期:平成21年2月10~15日

会 場:横浜国際平和会議場

事業内容:国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進を図る。

結 果:1)NEC杯:平成21年2月10日~14日

(収入2,041千円/予算2,200千円)

国外から14ヶ国からのプレイヤーで構成される11チーム(イスラエル、ブラジル/アルゼンチン/スペイン、オーストラリア、イギリス/アイルランド、アメリカ/カナダ、オランダ、中華台北、中国=以上招待チーム、中国、韓国、香港)、国内参加チーム35チームの合計46チームが参加し、中国ウィメンズ(Sun Ming, Wang Hongli, Wang Wenfei, Liu Yiqian, Yan Ru, Dong Yongling)が優勝した。

2)横浜スイスチーム:平成21年2月14日(70チーム)

(収入1,342千円/予算1,650千円)

優勝:Frankie Frontaura, Federico Goded, Gonzalo Goded,  
大手瑠利

3)飛鳥杯:平成21年2月11日

(収入1,125千円/予算1,600千円)

186ペア参加、井野正行-豊福京子ペアが優勝。

4)横浜IMPペア:平成21年2月13日

(収入320千円/予算0円)

50ペア参加、島村京子-Brian Seniorペアが優勝

5)BIGLOBEシリーズ:平成20年9月~12月

(収入6,488千円/予算5,500千円)

33クラブで658回開催、延べ25,944名参加

6)NECブリッジ体験教室の開催(普及事業部扱い)

普及事業部で報告。

(フェスティバル収入合計15,491千円/予算10,950千円)

3. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施した。

(1)世界同時大会への参加(収益415千円)

会 期:平成20年6月6日、7日

会 場:公認クラブ、ブリッジセンター

事業内容:平成20年6月6日および7日に開催される世界同時大会に参加協力する。

結 果:6月6日(金)=12クラブ、518名参加

6月7日(土)=11クラブ、312名参加

(2)PABF同時大会への参加(収益647千円)

会 期:平成20年11月~平成21年4月

会 場:公認クラブ、ブリッジセンター

事業内容:平成20年11月~平成21年4月まで毎月第1金曜日/土曜日に開催されるPABF同時大会開催に参加協力する。

結 果:11月=14クラブ、506名参加



12月＝15クラブ、616名参加  
1月＝15クラブ、564名参加  
2月＝14クラブ、602名参加  
3月＝15クラブ、586名参加  
(4月＝13クラブ、530名参加)

(3) WBFチャリティペアへの参加(収益428千円)

会 期：平成21年1月26日～30日

会 場：公認クラブ、ブリッジセンター

事業内容：平成21年1月26日～30日に開催されるWBFチャリティペアに参加協力する。

結 果：1月26日＝1クラブ、32名参加

1月27日＝2クラブ、76名参加

1月28日＝5クラブ、220名参加

1月29日＝2クラブ、42名参加

1月30日＝8クラブ、302名参加

(4) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集

1) ACBLとの提携の継続・強化：ACBL競技会を会報で紹介

会報にACBLナショナルの日程を掲載した。

2) PABF加盟国競技会の開催情報の提供

香港インターシティ、ASEAN選手権などの開催情報を会報に掲載した。

3) 各国ブリッジ組織とマスターポイント相互承認協定の締結交渉

ACBLの会員となっているJCBL会員・会友のマスターポイント情報を定期的にACBLに送付し、みなしマスターポイント(Eligibility Points)として登録している。

4) JCBLホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。

競技会案内とNECブリッジフェスティバルの英文情報をウェブサイトで公開した。

また、WBF、ACBLなど主要ブリッジ団体のウェブサイトリンクした。

(5) PABF大会福岡開催の誘致活動

事業内容：2007年3月の九州支部設立をきっかけに九州地区でのブリッジ振興の一助としてPABF大会を福岡市に誘致する。

結 果：2008年ゴールドコースト(オーストラリア)で開催されたPABF代表者会議で、2012年大会の福岡開催を提案し満場一致で承認された。

(6) その他目的達成に必要な経費[2,227千円/2,559千円]

交通費、通信費、会議費等の国際交流事業部の活動に必要な経費を支出した。

## 九州支部

九州支部結成3年目に当たる2008年度は、ブリッジ普及・広報活動事業の核として位置づけていた2012年PABFコングレスの福岡誘致が実を結んだ年になりました。

2008年8月31日にオーストラリアで開催されたPABF代表者会議で正式決定したものです。支部は、これを受けて、翌9月1日に2012年福岡大会誘致委員会を開催し、委員長の河部浩幸福岡商工会議所会頭からの報告を受け、同誘致委員会を「PABF2012」福岡委員会と名称を変更し、大会成功に向けた官民一体の新体制を組織しました。さらに、アジア各国から来訪するブリッジプレイヤーとの交流を通じて、国際親善、文化交流の進展と地域活性化に資する大会の実現に協力する等の3項目の委員会アピールを採択しました。

九州支部としては、同委員会の事務局を設置するとともに、ブリッジ広報活動の一環として発行している支部会報4号目「ワンスペート」を福岡委員会発行とし、委員会と支部の連携を強化に努めています。また委員会のメンバーにブリッジを理解してもらうために河部委員長発案で、ミニブリッジパーティー（2月23日）を開催しましたが、駐韓国総領事夫妻も参加され、大きな成果を上げました。

社会教育、学校教育分野でのブリッジ普及事業に関しては、一日体験教室の開催を数多く展開するとともに、普及のための種まき人（シーダー役）育成を目指して、支部主催のミニブリッジ一日体験教室インストラクター養成講座（6回講座）を開催、一期生17人（うち13人は地方会員に登録）を送りだしました。このうち13人は、連盟地方会員（支部会員）に入会、ミニブリッジ普及に意欲を燃やしています。

競技会につきましては、7月に「第1回山笠リジョナルテレビ西日本杯」を開催しました。夏場の開催、チーム戦形式—この2項目の大会特色は、PABFコングレス開催を視野に置いたもので、この大会を通じて、PABFコングレスの地元としての方向性を探ることができ、意義深い、充実した大会になりました。

第3回西日本新聞社杯、第33回九州リジョナルは、3月に開催し、東京・関東を中心に多数の参加がありました。福岡・長崎チームが強豪を制して優勝し、地元にも明るい話題を提供しました。また九州リジョナル開催当日に開いた支部主催のミニブリッジパーティーには33人が参加、一日インストラクター養成講座の修了者がお手伝いに多数参加しました。また福岡市舞鶴公民館では、職員を対象にミニブリッジ講座を開講しており、今後の普及の在り方に一石を投じる試みと考えています。

### ■ミニブリッジ体験教室開催一覧

■会報発行 第3号「1♡（ワンハート）アジアへオープン」（4月30日発行）

第4号「1♠（ワンスペード）PABF大会特集」（10月10日発行）

■大会実績 第3回西日本新聞社杯（九州リジョナル ペア戦） 104 ペア参加

2009年3月2日 会場；福岡交通センター

第1回山笠リジョナルテレビ西日本杯

2008年7月13日 会場；福岡交通センター

### ■支部会員の状況

賛助会員；法人 5社・個人 28人、会員；57人、会員計 5社・85人

## 福岡ブリッジプラザ

プラザ 2 年目の 2008 年度は、新人の発掘として体験教室を 3 月末と 9 月末に入門講習会を 4 月から週 1 回で 24 回と 10 月から週 1 回で 24 回と年 2 回行った。広告は西日本リビング新聞と新聞の折込チラシを地域を限定して行なった。体験参加者の半分以上は口コミなのでプラザのお客様に体験教室の案内を配って知人の紹介をお願いした。プラザでウィークリーゲームに参加している方で地元の公民館でブリッジを教えたい希望のご夫婦が 3 組あり、地元の公民館で体験教室を実施した。その中で西高宮公民館では、入門講習会を実施するまでになった。前年に入門講習会を終えた新人をプラザに定着する為にサロンと初級向けのウィークリーゲームを行ない、月曜から木曜日のサロンと火曜午後、水曜午後のウィークリーゲームは定着した。また初級者向けの月例会を月に 1 回第 4 金曜に行ない 5 テーブルから 9 テーブルの参加者が集まるようになった。入門コースを終えた人向けにレベルアップ初級講習会をコンベンションや 2 オーバーワンを学びたい人向けにレベルアップ中級講習会を実施した。この 2 年間で新人 50 人が育ち、その内 20 人が JCBL に加入した。

IMP リーグは夏と冬の 2 回平日と土日の 2 リーグを実施した。セクショナルは 10 月以降福岡 BC 主催からプラザ主催になり収支の改善になった。

### [主な事項]

#### 1.体験教室

3 月～4 月の体験教室 参加 36 名

9 月～10 月の体験教室 参加 23 名

#### 2.入門講習会

4 月～9 月の入門講習会 15 名受講

10 月～3 月の入門講習会 11 名受講

#### 3.外部入門講習会(最終的にはブリッジを目指している)

西高宮公民館 20 名参加 毎週火曜午後 オークション

白浜町公民館 20 名参加 土曜日(不定期) ミニブリッジ

つつじヶ丘公民館 12 名参加 第 4 金曜 ミニブリッジ

#### 4.サロン

月曜午前、火曜午前、水曜午前、木曜午後、金曜午前実施  
延べ 1,030 名、実質 60 名

#### 5.レベルアップ講習会

レベルアップ初級 年間延べ 224 名(実質 50 名)

レベルアップ中級 年間延べ 158 名(実質 15 名)

## 6.ウィークリーゲーム

月曜午後 まだ流れることが多い 50名  
火曜午後 平均5.テーブル 延べ1,000名  
水曜午後 平均2.5テーブル 延べ400名  
月例会 平均7テーブル 延べ300名

## 7.IMP リーグ

平日リーグ 6チーム 長崎、広島1チームずつ参加  
土日リーグ 6チーム 熊本から1チーム参加

## 8.セクショナル(10月以降プラザ主催)

月1回実施  
麻生杯が12テーブル他は5~6テーブル

## 9.ナショナル(リジョナル)予選

文部大臣杯 2テーブル  
外務大臣杯 6テーブル  
読売新聞社杯 4.5テーブル  
高松宮妃杯 3テーブル  
柳谷杯 5テーブル

## 10.JCBL 会員新規加入

20名

九州支部収入(1,930千円/予算2,730千円)

福岡ブリッジプラザ収入(5,297千円/予算4,394千円)

九州支部支出(3,754千円/予算4,994千円)

福岡ブリッジプラザ支出(13,519千円/予算12,406千円)

九州支部支援事業支出(434千円/予算960千円)

# その他の事業

## 1. その他連盟の目的を達成するための管理部門を含む事業（34、004千円／予算36、205千円）

本年度は、目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施した。

### (1) 事務局（一般管理費）の維持

理事会の管轄の下に事務局を設置して諸事業活動を支援した。

#### 平成19年度重要業務

- 4月 1日 職員に平成20年度辞令交付  
新日本監査法人による現金実査、商品棚卸実施
- 19日 新日本監査法人、監事立ち会いで平成19年度決算書作成、監査
- 5月 2日 第27回会員総会開催通知発送
- 5月24日 第27回会員総会開催、174名参加
- 5月31日 平成19年度決算書を四谷税務署、新宿都税事務所に提出
- 6月17日 文化庁文化部芸術文化課に、平成19年度事業報告及び収支決算報告書、平成20年度事業計画及び収支予算届、登記事項変更登記完了届を提出
- 8月13日 文化庁文化部芸術文化課に文部科学大臣杯終了届を提出
- 12月16日 文化庁文化部芸術文化課に特例民法法人概況調査票を提出

### (2) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）

#### 1) 商品販売事業

ブリッジ用品および書籍の販売と仕入れを行った。収支については収益事業決算書を参照されたい。

#### 2) 四谷ブリッジセンターとの提携

NPO法人四谷ブリッジセンターとの業務契約書に基づいて協同して会場施設の運営とブリッジの普及・振興に務めた。

### (3) 基金の運用

主催クラブの指定により、ローカル並びにクラブ選手権試合の公認料を次の基金の資金に充当して各種活動を支援した。

#### 1) チャリティ基金（3,550千円）

日本赤十字社等の各種団体のほか、中国四川大地震、岩手・宮城内陸地震等に次のとおり寄付した：

中国四川大地震義援金	1,000,000円
岩手・宮城内陸地震義援金	1,000,000円
全国視覚障害者雇用促進連絡会	200,000円
日本フォスター・プラン協会	200,000円
朝日新聞厚生文化事業団	100,000円
讀賣光と愛の事業団	100,000円
日比パガサの会	100,000円
高松宮妃癌研究基金	200,000円
癌研究会	150,000円
日本赤十字社	100,000円
横浜音声訳グループやまびこ	50,000円
アイメイト協会	100,000円
あしなが育英会	100,000円
日本イコモス国内委員会	100,000円
国連WFP協会	50,000円
合計	<u>3,550,000円</u>